

海外研修報告書

卒後臨床研修センター 研修医 2 年 勝又 諒

私は平成 27 年度の Traveling Fellowship Residency Program(TFRP)に第 9 期生として参加させてもらい、2015 年 5 月 27 日から 6 月 24 日の 4 週間、ドイツにありますフライブルク大学 (Freiburg Universität Klinikum Neurologie) で研修をさせていただきました。もともと海外での研修や留学に興味があったことから、研修医 1 年目の頃から本プログラムの責任者である長谷川徹先生にご相談させて頂き、研修に参加させてもらうことができました。今回は研修の報告として、街の紹介から研修内容、休日の生活などを書いていきたいと思います。

病院のある Freiburg はドイツの南西部に位置し、人口は約 20 万人、大学都市や環境都市として世界的に有名な街です。街の中心部にはミュンスター(大聖堂)がそびえ、市内は多くの歴史的な街並みが残っており、東側には黒い森と呼ばれる針葉樹林が広がる風光明媚な地域です。研修期間を合わせて 5 週間、この街に滞在して生活を送りました。



フライブルクの中心にある大聖堂



石畳の街並みはとても綺麗です

今回、初めての神経内科での研修ということで、長谷川先生に多大な協力を頂きながら、事前の準備をしました。いよいよ現地入りし、緊張の中、Professor Weiler のオフィスで長谷川先生と共に 3 人で研修の交渉をしたのを今でも鮮明に覚えています。長谷川先生の助けを借りなんとか研修の許可を得て、5 月 27 日からいよいよ Neurozentrum Neurologie Station Hofmann での 4 週間の間、僕は幸運にも、実習中の 6 年生と毎日一緒に仕事をさせてもらうことができました。彼らの日々の仕事は日本の初期研修医と似ていて、入院患者の状態把握や治療方針の決定、採血やルート確保などが主な仕事です。新規で入院患者が来た際には入念に問診や診察を行い、病態の把握や治療方針の決定を行います。週に 3 回教授もしくは Oberarzt (日本でいう講師や准教授?) による回診があり、日本に比べてプレゼンテーションの機会が多かったのが印象的でした。文化的な背景もあり、自らの意見や主張を伝えることに関しては我々日本人よりはるかに優れていて、見習いたい点であると感じました。それらに加え、画像カンファレンスや病理カンファレンス、学生用のセミナーなどがあり僕も可能な限り参加させて頂きました。会話は全てドイツ語でほとんど分からなかったですが、必死に後を付いて行きました。そういった経験は非常に刺激的で、普段の日本での研修では決して味わえないものであったと思います。



Neurozentrum のシンボル



現地の 6 年生と一緒に研修

平日は家に帰る頃には疲れ果ててほとんど出掛ける気力がありませんでしたが、休日は様々なところへ遊びに行きました。僕は事前に日本で現地ツアーなどは申し込まずに、その時の流れに身を任せることに決めていました。実際に研修中に現地の方々に、チューリッヒの世界遺産であるユングフラウ鉄道、フランスのアルザス地方、オッフエンベルクのワインフェスタなど、色々なところへ連れて行ってもらいました。その他にも、金曜日は街へ飲みに出かけたり、一緒に映画を観に行ったり、(もちろん何もせずひたすらゴロゴロする日もありましたが…それも含めて)現地の若者のような生活を送ることができてとても楽しかったです。一人旅のお勧めを聞いて、スイスのバーゼルや Schwarzwald のティティーゼーなどは 1 人で行ってみたいりましたが、とても街並みや景色が綺麗でした。また少し変わった経験として、ドイツでの日本語サークルのような会に参加させてもらいました。研修以外でもとても充実した時間を過ごせました。



今回、Traveling Fellowship Residency Program(TFRP)に参加させて頂き、本当に刺激的で有意義な時間を過ごすことが出来ました。ドイツ語はもちろん英語すらままならない自分が情けなくて落ち込んだことや同世代の友達が出来て嬉しかったこと、沢山助けてもらったのにドイツ語でうまくお礼が言えなくて悔しかったこと、少しですがヨーロッパの文化に触れ圧倒されたこと、もっと成長したいと強く思ったこと…そんな全てが詰まった1ヶ月間でした。最後になりましたが、今回海外研修にあたってご尽力いただいた海外研修プログラム責任者である長谷川徹教授、臨床教育研修センター長 柏原直樹教授、卒後臨床研修センター長中田昌男教授、園尾博司病院長先生、福永仁夫学長先生、川崎誠治理事長先生を始めとする川崎医科大学附属病院関係者の皆さまにこの場をお借りして厚く御礼を申し上げます。